

日本語の存在表現において「アル」「イル」の使用が抑制される場合

－「意図」と「常態的变化」－

渡辺 誠治

Japanese Existential Expressions which require *te-iru* and *te-aruru* instead of *aru* and *iru*

－ Intention and Continuous Change －

WATANABE Seiji

Abstracts

Some Japanese existential expressions require *te-iru* and *te-aruru* as verbs instead of *aru* and *iru*. This paper clarifies the characteristics of Japanese existential expressions with *aru/iru* and *te-iru/te-aruru*, especially from the perspective of intention and continuous change.

Keywords: 日本語、存在表現、テイル、テアル、アル、イル、意図、常態的变化

Japanese existential expressions, *te-iru*, *te-aruru*, *aru*, *iru*, intention, continuous change

0. はじめに

存在を表す日本語の最も基本的な動詞は「アル」「イル」であるが、「テイル」「テアル」が存在を表すケースもしばしば観察される。(1)では、非情物である「かまぼこ」の存在という同一の事態を「アル」「テイル」「テアル」という形式が表している。

(1) 冷蔵庫にかまぼこが {ある／入っている／入れてある}。

一方、最も基本的な表現である「アル」の使用が抑制され、「テイル」「テアル」の使用が優勢になるケースがある。次の(2)では「アル」の使用が強く抑制される。

(2) ラーメンにかまぼこが {*ある／入っている／入れてある}。

次の(3)(4)においても、(3)では「アル」「テイル」ともに使用可能だが、(4)では「アル」の使用が抑制される。

(3) 筆筒のひきだしに財布が {ある／入っている}。

(4) 歩道に財布が {??ある／落ちている}。

次の(5)(6)のように、有情物の存在を表す文においても「イル」と「テイル」の使い分けが観察されるケースがある。“トイレ清掃中”であれば(5)のように「イル」が優勢になり、“トイレ使用中”であれば(6)のように「テイル」の使用が優勢になる。

(5) トイレに清掃係の人が {いた／??入っていた}。

(6) コンビニには2つトイレがあったが、運悪く2つとも人が {^{??}いた／入っていた}。

上記の言語現象について、渡辺(2023^①)等は、「事態の類型」「存在の典型性」という観点から各形式間の使い分けの要因について考察し、使い分けの規則の体系化を試みている。

また渡辺(2023^②)では、渡辺(2023^①)で提示された抽象度の高い「規則」に、実際の運用における「使用頻度」という観点を加えて、日本語教育での存在表現の扱いに関する新たな枠組みを提案している。その際、次の(i)～(iii)を今後の課題として挙げている。

- (i) 人の存在を表す慣習化した表現
- (ii) 移動や変化を常態とする物の存在
- (iii) 「アル」より「テイル」の使用が好まれる傾向のある表現

このうち(i)は渡辺(2023^①)で既に議論されているが、「意図」という観点から他の言語現象を含めて再検討する余地を残している。(ii)(iii)は「事態の類型」「存在の典型性」という枠組みだけでは十分に説明できない部分を含んだ問題である。

本稿の目的は、これまでの理論的な枠組みだけでは十分に説明できない用例に焦点を当て、それらの表現において「アル」「イル」の使用が抑制される要因を明らかにすることである。

1. 先行研究

存在表現としての「アル」「イル」に関する研究はかなりの蓄積がある。また「テイル」と存在との関係についても、藤井(1966)、奥田(1983)、寺村(1984)、張(1991、2006)、野村(2005)、于(2007)などの研究がある。しかし「アル」「イル」と「テイル」「テアル」との間の使い分けの要因に言及している研究は、陳(2009)、佐藤(2017)、渡辺(2020、2021、2023^①、2023^②)など比較的新しい研究に限定される。

1.1 「アル」「イル」「テイル」「テアル」の使い分けに関するこれまでの議論

「アル」「イル」と「テイル」の使い分けに着目した最も初期の論文は陳(2009)である。陳(2009)は、日本語母語話者が「結果の状態のテイル」を使用する場面で中国語を母語とする日本語学習者が「ある／いる」を使用するケースに着目し、「ある／いる」と「結果の状態のテイル」を類義表現として捉えることの教育的な有効性を指摘した。これを承け、佐藤(2017)は、存在に至る過程の言語化という観点から有情物の存在を表す文を中心に考察している¹。これらの研究成果を踏まえ、渡辺(2020 他)は、有情物、非情物の存在を表す「アル」「イル」「テイル」「テアル」の使い分けの規則の体系化を試みている。

本節では、以下、渡辺(2023^①)(2023^②)で示された存在を表す各形式間の使い分けの規則の概要を紹介する。

1.2 非情物の存在を表す「アル」「テイル」「テアル」の使用の可否を決定する2つの要因

「アル」「テイル」「テアル」は、次の(7)のように、非情物の存在を表すことができる。

(7) 冷蔵庫にかまぼこが {ある／入っている／入れてある}。 (= (1))

これらの動詞の形式の使用の可否は、「事態の類型」「存在の典型性」という2つの要因によって

¹ これらの先行研究の詳細は渡辺(2021)(2023^①)に述べられているので、ここでは詳細を省く。

決定される。以下、渡辺（2023^①）（2023^②）の論考に基づき概要をまとめる。

1.2.1 事態の類型

「事態の類型」とは、“ある場所に物が存在するに至る過程の違い”に基づく存在の仕方の類型である。「事態の類型」は[変化][移動][意志]という3つの特徴によって4つの類型に分類される。

1.2.1.1 [変化][移動][意志]という意味的特徴に基づく事態の類型化

以下、用例を3つの意味的特徴にしたがって段階的に類型化していく。

① [(+) 変化] [(-) 変化]

次の(8)における「畝傍山」は日常的には元々その場所に存在しているものとして認識される。

- (8) 遠くに、盆を伏せたような耳成山が、わずかにかすんで見えた。手前には、蝦夷の館のある甘樫丘。その向こうに、畝傍山が{ある／—}。大和三山。この山々を見て育った。二十年にも満たぬ年月だが、いままでは平穩に過ぎた²。(PB29_00251)

一方、次の(9)(10)における「腫瘍」「ギンナン」は、(8)とは異なり、元々（はじめから）その場所に存在していたとは一般に認識されにくい。(9)の「腫瘍」は、ある時その場所で「発生出現」した結果その場所に存在するものとして、また、(10)の「ギンナン」は、木の枝から地面に「移動（落下）」した結果その場所に存在するものとして認識されるのが普通であろう。

- (9) CTの結果からも、明らかに 腎盂内に腫瘍が{ある／できている}。腎盂内の尿からはがん細胞は見つからなかったが、良性である可能性はきわめて低い。(LBr9_00153)
- (10) 御堂筋の銀杏並木は、まだまだ青っぱい。歩道に、一粒、二粒とまだ柔らかいギンナンが{??ある／落ちている}。見上げると、葉っぱの間にギンナンがなっている。(0Y14_28114)

「発生出現」は“無から有へ”の状態の変化であり、「移動」は“ある場所から別の場所へ”の場所の変化である。つまり、(9)(10)が表す事態は、いずれも何らかの「変化」の結果として、物がその場所に存在していると捉えることができる。こうした事態の在り方を[(+) 変化]と表記することにする。一方、(8)の「畝傍山」は何らかの変化の結果としてそこに存在しているのではなく、元々そこに存在している物として、日常的には、認識されるであろう。このような事態の在り方を[(-) 変化]と表記する。

② [(+) 移動] [(-) 移動]

次の(11)の「ロス女史のクッキー」は、(10)の歩道上の「ギンナン」と同じく、[移動]の結果として「冷蔵庫」に存在していると捉えられる。

- (11) 冷蔵庫にロス女史のクッキーが{ある／入っている／入れてある}。(0B4X_00069)

(10)(11)のように、[移動]という[(位置の) 変化]の結果として、ある場所に物が存在していると捉えられる場合を[(+) 変化／(+) 移動]と表記する。一方、(9)の「発生出現」のよ

² { } 内の動詞のうち、実際の用例に現れた形式に下線を付ける。

うに、[移動]を伴わない[変化]の結果としてある場所に物が存在していると捉えられる場合を[(+) 変化 / (-) 移動]と表記する。

③ [(+) 意志] [(-) 意志]

(10) と (11) はともに [(+) 変化 / (+) 移動] である。しかし、(11) の「クッキー」は人がそれを「冷蔵庫」に移動させたと考えるのが自然だから、(11) の [移動] には「クッキー」を移動させた人の [意志] が介在する。一方、(10) における「ギンナン」の落下は自然現象であるから、その [移動] (=落下) には人の [意志] が介在していない。

(11) のように、人の [意志] の介在を伴う [移動] の結果として物が存在している場合を [(+) 変化 / (+) 移動 / (+) 意志]、一方、(10) のように、[移動] に [意志] の介在がない場合を [(+) 変化 / (+) 移動 / (-) 意志] と表記する。

1.2.1.2 「事態の種類」のまとめと、使用可能な形式

以上をまとめたのが図1である。図1は、[変化/移動/意志]の有無によって「事態の種類」が事態Aから事態Dの4つに分類され、それによって使用可能な動詞の形式が決定されることを示している。

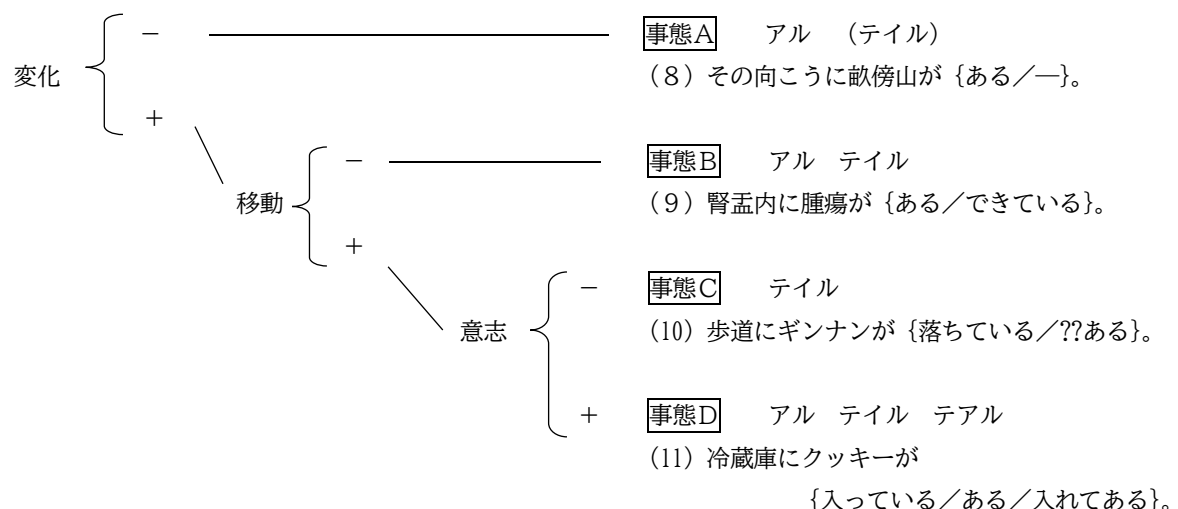


図1 「事態の種類」と各類型で使用可能な動詞の形式

1.2.2 存在の典型性

「アル」「テイル」「テアル」の使用の可否を決定する要因には、上述の「事態の種類」のほかに、もう1つの要因がある。それは「存在の典型性」である。

「事態の種類」は“存在物がどのような過程を経て存在に至ったか”によって動機付けられた事態の捉え方である。言い換えれば、存在物がそこに至るまでの時間的なプロセスの中に、物の存在を位置づけようとする捉え方と言える。

一方、「存在の典型性」とは、端的に言えば、“物の存在の仕方が普通か普通でないか”によって動機付けられた事態の捉え方と言える。したがって、「存在の典型性」の関心は、存在物が存在に至る時間的なプロセス (= 「事態の種類」) に対してではなく、存在が成立した後の存在物と存在場所との間の空間的な特徴に対して向けられている³。

³ 本稿は、「事態の種類」「存在の典型性」をそれぞれ独立した要因として捉える立場を取っている。ただし、両者はともに「アル」と「テイル、テアル」という共通した形式の対立として現れる点を考慮すると、両者の間には考察すべき重要な課題が含まれていると思われる。この点は今後の課題としたい。

さて、「事態の類型」の観点から言えば、図1の事態Dの条件を満たしている場合、すなわち、[(+) 変化／(+) 移動／(+) 意志]である場合、(12)のように「アル」の使用が可能である。

- (12) 冷蔵庫にロス女史のクッキーが {ある／入っている／入れてある}。 (= (11))

しかし、次の(13)(14)は事態Dの条件を満たしているにもかかわらず「アル」を使用できない。

- (13) ネーミングからして、コーヒー味のアイスクリームにクッキーが {*ある／入っている／入れてある} のでしょう？ と予想された方、残念ながら、いい意味で期待を裏切ってくれます。
(<https://hugkum.sho.jp/235171>)
- (14) 富山ではラーメンやうどんにもかまぼこが {*あります／入っています／入れてあります}。
(PB19_00719)

(12)と(13)(14)における「アル」のふるまいの違いには、存在物と存在場所との空間的な関係が関与している。すなわち、存在物が場所らしい場所に特徴的な様態を伴わず存在している場合(これを[(+) 存在の典型性]とする)は「アル」が使用可能になり(= (12))、これを逸脱している場合(これを[(-) 存在の典型性]とする)は「アル」の使用が抑制される(= (13)(14))。

[(-) 存在の典型性]の特徴は概ね次のように分類される。いずれの場合も「アル」の使用が抑制される。

① 混入

存在物が存在場所と渾然一体となり、両者を分けたり存在物だけを分離して取り出したりすることが難しい場合。

- (15) 虫歯予防ということで歯磨き粉にはフッ素が {*あります／入っています／入れてあります}。
(PB29_00328)
- (16) コーヒーに砂糖が {*ある／入っている／入れてある}。

② 全体と部分

存在場所と存在物が全体と部分の関係をなし、存在物が全体(存在場所)を構成する1つの要素となっている場合。

- (17) 富山ではラーメンやうどんにもかまぼこが {*あります／入っています／入れてあります}。
(= (14))
- (18) 早紀は靴を室内ばきに履きかえた。アラスカでパパが買ってきてくれた、エスキモーの靴だそう。なめし皮の靴の周りに、ふわふわの毛皮が {*ある／付いている／付けてある}。
(LBk9_00142)

③ 固定

落下する物がある場所に引っかかったり、あるいは、ある場所に物が刺さったり張り付いたりすることによって、その物がその場所に固定されている場合。

- (19) この窓のまわりにもガムテープが {*あった／貼ってあった}。
(LB09_00132)

- (20) ドアにはリボン飾りのついたリースが {^{??}ある／かかっている／かけてある}。
(PB49_00137)

④ 書（描）いた物、あるいは、塗ったもの

文字や絵が平面上に書（描）かれて存在する、あるいは、表面に何かが塗られている場合。

- (21) 中国ふうの赤い看板に、なにやら漢字が {*ある／書いてある}。 (LBq9_00244)
(22) おれたちの家は外壁にちゃんとペンキが {*ある／塗ってある} んだ。 (LBr9_00141)

⑤ 表面を広く覆う

ある物の全体を薄い物が覆っている場合。

- (23) いつのまにか灯台に火がともり、窓の外はまっ暗になっていた。身体には、あたたかい毛織りの布が {*ある／かかっている／かけてある}。 (PB39_00465)
(24) さすがに羊毛の国、浴室の中にまでカーペットが {*ある／敷いてある}。 (LBi0_00015)

2. 問題の所在

以上、日本語の存在表現における「アル」「テイル」「テアル」の使い分けの要因について、渡辺(2023^①)などで提示されている「事態の類型」「存在の典型性」の観点からの考察の概要を述べた。しかし、「アル」「イル」の使用が抑制される存在表現の中には、この枠組みだけでは十分に説明ができないケースがある。本稿ではそのようなケースを中心に考察する。

2.1 研究課題 その1

次の(25)～(27)の場合、「アル」は使いにくく、「テイル」が使用される場合が多い。

- (25) 空に月が {[?]ある／出ている、浮かんでいる、輝いている}。
(26) 額に汗が {^{??}ある／にじんでいる、出ている}。
(27) バス停に駅前行きのバスが {^{??}ある／とまっている、来ている、待っている}。

こうした「アル」のふるまいを「事態の類型」で説明することはできない。(25)は「月」という自然物の存在を表しているが、事態Aの「向こうに山がある」とは異なり、「アル」の許容度が低い。

(26)の「汗」は身体上に発生出現した結果存在する物であるが、事態Bの「顔に痣がある」とは異なり、「アル」の許容度が低い。(27)の「バス」は人が対象を移動させた結果その場所に存在する物であるが、事態Dの「冷蔵庫にクッキーがある」とは異なり、「アル」の許容度が低い。ここでの「アル」の許容度の低下については、存在物の常態的变化という観点から3節で考察する。

2.2 研究課題 その2

渡辺(2021)では、有情物の存在を表す文における「イル」と「テイル」の使い分けについて考察している。詳細は後述するが、渡辺(2021)は、(28)(29)において「イル」の許容度に低下をもたらす要因を“動作主体の意図が文脈上に明確に示されている”という点に求めている。

- (28) 労働者の一人が政府を批判するビラをまいたとして、組合の事務所に警察が {^{??}いた／来ていた}。

- (29) 先日、とある全国チェーン店の〇スバーガーのショップに入った時のこと。注文して、商品が来るまでの待ち時間、トイレに行こうと思ったら、二つのトイレに人が {??いました／入っていました}。で、ちょっとそこから離れたところで空くのを待っていて、お一人出てきました。その人はその店員さんでした。

(<https://ameblo.jp/wjproducts1/entry-11059171287.html>)

一方、渡辺(2023^①)では、本来「アル」の使用が可能な事態Dの内部において「アル」の使用が抑制されるケースがあることを指摘し、その要因として、(28)(29)と同様に、“動作主体の意図が文脈上に明確に示されている”という点を挙げている。

- (30) 島原の火災の折、門が閉まっていた多数の遊女が逃げ遅れ、焼死したできごとがあったため、柳の下には用水手桶が {??ある／積んである}。 (PB32_00174)
- (31) あたりには茶の木をかきねがわりにうえた農家が多く、どの庭にもつけ物用のダイコンが {??あった／ほしてあった}。 (LBb9_00118)

ただし、(28)(29)は有情物の存在、(30)(31)は非情物の存在という枠組みの中でそれぞれ別々に記述されているため、“動作主体の意図が文脈上に明確に示されている”場合に「アル」「イル」という存在動詞の使用が抑制されて「テイル」「テアル」という形式が用いられるという一般性が見えにくくなっている。本稿では、意図の明示が「アル」「イル」の使用を抑制するという観点からこれらの用法に関する渡辺(2021、2023^①)での記述を統一的に整理し直す(4節)。

3. 常態的变化

「星」「霧」(自然物(自然現象)⁴)、「汗」(生理現象)、「車」「バス」(乗り物)などの存在は「テイル」によって表現される場合が多く、一般に、存在動詞「アル」の使用が抑制される。

- (32) 空に月が {?ある／出ている、浮かんでいる、輝いている}。 (= (25))
- (33) 稜線の右側だけに霧が {??ある／出ている}。
(<https://www.bizclip.ntt-west.co.jp/articles/bc100020-063.html>)
- (34) 額に汗が {??ある／にじんでいる、出ている}。 (= (26))
- (35) あわてて振り向くと、三十メートル前方に車が {??あった／停まっていた}。ヘッドライトが、じっとこちらを見ている。 (LBh9_00082)

(32)～(35)における存在物「月」「霧」「汗」「車」は、移動や状態変化など、何らかの変化を常態とするという共通した特徴(「常態的变化」と呼ぶことにする)を持っている⁵。存在対象が常態的变化という特徴を有する場合、「アル」の使用が抑制されると考えられる⁶。以下、実際の用例に基づき、この点を検証していく。用例の収集は、BCCWJより「中納言」を用いて行う。検索条件は以下の通りである。

⁴ 自然物とは異なるが、「霧」「霜」「虹」のように、対象を実態のあるモノとして視覚的に認識できるような場合もここに含める。一方、「地震」「台風」のような、具体的なモノとして視覚的に認識できない現象や、「津波」「雪崩」のように、モノとしてではなく、運動として認識されるものはここでの考察対象としない。

⁵ 正確に言うと、当該の文の言語主体が発話の状況において対象をそのように認識しているということである。

⁶ 「事態の類型」「存在の典型性」の観点から「アル」の使用が可能であっても存在物が「常態的变化」という特徴を有する場合、「アル」の使用が抑制される。

- (36) 「テイル」の検索条件：
(前方)キーから4語以内/書字形:に/品詞:格助詞、キー:品詞:名詞、(後方)キーから1語/書字形:が/品詞:格助詞、キーから2語/品詞:動詞、キーから3語/語彙素:テ、キーから4語/語彙素:イル
- (37) 「アル」の検索条件：
(前方)キーから4語以内/書字形:に/品詞:格助詞、キー:品詞:名詞、(後方)キーから1語/書字形:が/品詞:格助詞、キーから2語/語彙素:アル/品詞:動詞

3.1 調査

検索結果の概要を名詞の意味に基づいて分類し以下に示す。(詳細は次節の表1、2を参照のこと)

① 自然物(自然現象)⁷

「月」「星」「太陽」「霧」「霜」および「煙⁸」が実際に存在している状況を描写している文における「テイル」と「アル」の用例数は次のとおりである。

「テイル」については118個の用例がヒットしたが、ここからノイズを目視で除去し、85個を抽出した。「アル」については33個の用例がヒットしたが、ここからノイズを目視で除去し、11個を抽出した。

「月」「星」「太陽」「霧」「霜」「煙」が実際に存在している状況を描写している用例における「テイル」と「アル」の割合は、「テイル」が88.5%、「アル」が11.5%であった。

参考として、「山」「岩」「石」についても調査し、「テイル」「アル」を合わせて89個(ノイズ除去後)の用例を検出した。うち「テイル」は29.2%、「アル」は70.8%であった。

② 生理的現象

「涙」「汗」「水ぶくれ」および「腫瘍」「しこり」「痣」「瘤」が身体に存在していることを表す文における「テイル」と「アル」の用例数は以下のとおりである(ノイズ除去後)。

まず「汗」「水ぶくれ」では42個の「テイル」の用例が検出された。一方、「アル」の用例は1つも検出されなかった。また、「涙」では、「テイル」66個、「アル」4個の用例が検出された。

一方、「腫瘍」「しこり」「痣」「瘤」では「テイル」の用例が19個、「アル」が37個であった。

③ 植物

「花」「草」の存在を表す文における「テイル」と「アル」の用例数(ノイズ除去後)とその割合は、「テイル」が53個(85.5%)、「アル」が9個(14.5%)であった。一方、「木」の存在を表す文では、「テイル」が10個(18.2%)、「アル」が45個(81.8%)であった。

④ 乗り物

「車」「バス」「ベンツ」「ポルシェ」「船」が、特定の場所に存在している(構文的に「二格名詞句」を取る)状況を描写している文における「テイル」と「アル」の用例数は次のとおりである。

「テイル」については96個の用例がヒットしたが、ここからノイズを目視で除去し、67個を抽出した。「アル」については33個の用例がヒットしたが、ここからノイズを目視で除去し、7個を抽出した。

⁷ 注3参照。なお、「生物」は別途取り上げる。

⁸ 自然物ではないが、発生後空気中に漂い人が制御しにくく常に流動しやがて消えていく(常態的变化)という「霧」に近い特徴を持つため調査対象に加えた。

乗り物が、自然物や生理的現象と異なるのは、「イル」の使用が見られる点である。「イル」の用例は13個であるが、そこからノイズを除去した5語を抽出した。

「車」「バス」「ベンツ」「ポルシェ」「船」が、特定の場所に存在している状況を描写している用例における「テイル」「アル」および「イル」の割合は、「テイル」が84.8%、「アル」が8.9%、「イル」が6.3%であった。

⑤ 動物

動物として「トンボ」「ハエ」「蚊」「虫」「蜂」「蟻」「鳥」「亀」「蛙」「蛇」「熊」「猫」「犬」について、これらがある場所に（二格名詞句との共起）存在していることを表す文における「テイル」と「アル」の用例数を調べた。総数203個（ノイズ除去後）のうち、「イル」が122個（60%）、「テイル」が81個（40%）であった。

参考として「人」「女」「男」について調べたところ、「イル」の割合がさらに増加し、「人」（92.8%）、「女」（80.4%）、「男」（74.3%）であった（ノイズ除去後）。また、「猫」「犬」も「人」「女」「男」と同様の傾向を示した。すなわち、「イル」の割合は「猫」が74.3%、「犬」が77.8%であった。また「虫」も「イル」の割合が64.7%とやや高かった。

「蚊」「蜂」「蟻」「鳥」「亀」「蛙」「蛇」「熊」は、「イル」と「テイル」の割合に顕著な偏りは見られなかった。

逆に、「トンボ」「ハエ」「鳥」では、「テイル」の割合が「イル」を上回った。「テイル」の割合はそれぞれ75.0%、75.0%、59.3%であった。

⑥ その他

上記以外に「芽」「銅像」「ビル」「家」「棚」「トイレ」「テレビ」「メモ」についても同様の調査をした。

3.2 分析

上記①～⑥の調査結果を次頁の表1と表2にまとめる。表1は存在物が有情物の場合、表2は無情物の場合である。いずれも「テイル」の使用の割合が多い順、つまり「アル」の出現率が低い順に配列してある。

なお、「水ぶくれ」「蚊」「蟻」「蛙」「亀」は用例数が5個未満だったため除外した。「メモ」「家」「テレビ」「トイレ」（表中に※を付した）には「テアル」も出現したが、この表では「アル」以外の形式として「テイル」に含めてカウントした。また「バス」「車」「船」には「イル」も出現したが、「テイル」に含めてカウントした⁹。「ベンツ」「ポルシェ」は用例数がわずかであったため「車」に含めてカウントした。

⁹ 乗り物の存在に「イル」で出現するケースの詳細は今後の課題である。

表 1 有情物の存在を表す動詞

	テイル	イル	計	テイルの割合
トンボ	6	2	8	75.0%
ハエ	6	2	8	75.0%
鳥	16	11	27	59.3%
蜂	3	3	6	50.0%
熊	7	8	15	46.7%
蛇	9	11	20	45.0%
虫	12	22	34	35.3%
男	36	104	140	25.7%
猫	10	29	39	25.6%
犬	8	28	36	22.2%
女	19	78	97	19.6%
人	67	858	925	7.2%

表 2 非情物の存在を表す動詞

	テイル	アル	計	テイルの割合
霜	5	0	5	100.0%
汗	38	0	38	100.0%
バス	9	0	9	100.0%
草	9	0	9	100.0%
煙	19	1	20	95.0%
星	18	1	19	94.7%
涙	66	4	70	94.3%
霧	13	1	14	92.9%
船	12	1	13	92.3%
車	51	6	57	89.5%
月	22	3	25	88.0%
花	44	9	53	83.0%
芽	8	2	10	80.0%
太陽	8	5	13	61.5%
ビル	7	5	12	58.3%
メモ※	12	9	21	57.1%
痣	8	8	16	50.0%
瘤	7	7	14	50.0%
銅像	4	5	9	44.4%
石	8	11	19	42.1%
家※	28	68	96	29.2%
看板, 案内板	11	27	38	28.9%
山	14	40	54	25.9%
岩	4	12	16	25.0%
棚	3	10	13	23.1%
しこり	3	11	14	21.4%
木	10	45	55	18.2%
テレビ※	2	11	13	15.4%
トイレ※	3	17	20	15.0%
腫瘍	1	11	12	8.3%

3.2.1 有情物（表1）

有情物の存在を表す動詞は、次節で述べる“意図が関与する一部の用法”を除き、基本的に常に「イル」を用いることができる。そうした中で「テイル」の使用が優勢であったのは「トンボ」「ハエ」「鳥」であった（表1）。ただし、(38) (39) のように「イル」への置き換えは可能である。

- (38) そこここに、アカトンボが {飛んでいる／いる}。 (OY05_03071)
 (39) アニタの足の裏に一匹の蠅が {留っている／いる}。 (OB1X_00302)

「テイル」の出現数が多いのはいずれも“飛んでいるイメージ”が相対的に強い動物であった。逆に「テイル」の出現数が「イル」の出現数を大きく下回っているのは「人」「女」「犬」「猫」「男」「虫」であった。「蛇」「熊」「蜂」は「イル」と「テイル」の出現数に顕著な差が見られなかった。

3.2.2 非情物 (表2)

表2の非情物を見ると、「テイル」の出現数が低く「アル」が多く使用されているものの多くは、「トイレ」「テレビ」「棚」「家」「岩」「山」のように、渡辺(2023^⑩)で「非可動型¹⁰」とした語である。これとは逆に「テイル」の出現数が「アル」の出現数を大きく上回っている「霜」「汗」「バス」「草」「煙」「星」「涙」「霧」「船」「車」「月」「花」「芽」はいずれも変化(移動や状態変化)を常態とすると特徴付けることが可能である。これらの存在は「アル」を用いて表現することが困難な場合が多い。

- (40) 片側へ少し寄って確かめると、樹が植えてあった辺りの土は平らに均されており、表面にはぼんやりと霜が {おりている／*ある}。 (LBh9_00071)
 (41) 岩場を走ってきたので顔に汗が {浮かんでいた／*あった}。 (PB19_00136)
 (42) 入国税も噂より安く、ドラムにタックスをかけられることもなく、極めて友好的かつスムーズに入国できた。C & E (カスタム・アンド・イミグレーション) のすぐそばにオンボロバスが {停まっていた／*あった}。モトリスタ (運転手) にウエウエテナンゴ行きなのを確認すると、サッサとバスの屋根にドラムとリヤカーを積み上げた。 (LBg2_00026)
 (43) 清掃していて気がつくことは、ポイ捨てのタバコの9割以上に消した形跡がなく、火がついたまま捨てられているということです。周りには草が {生えている／??ある} ところなどもあり、タバコの火が他に燃え移る危険が十分あります。非常に怖いことです。 (OP66_00001)
 (44) 校長室のドアが力づくで押し開けられる。中には、白い煙が {たちこめていた／*あった}。 (PB49_00010)
 (45) 枝には鳥が巣を作り、はかない命の頭上には、星が {瞬いていた／??あった}。 (LBk9_00020)

一方、事態Bに分類される「腫瘍」「しこり」「痣」「瘤」は、ある場所に発生出現し、その後、その場所から移動せず、その場所に留まり続けるという特徴を持つ。これらの中で、特に「腫瘍」「しこり」での「アル」の出現数が多い。ただし、「テイル」の使用も見られる¹¹。

- (46) CTの結果からも、明らかに腎盂内に腫瘍が {ある／できている}。 (LBr9_00153)
 (47) カルテを見れば分かります、この患者は肺に腫瘍が {できていて／あって}、出血もある。 (OB5X_00291)

¹⁰ 「存在物の移動が困難または想定されていない」といった意味特徴を持つ存在物を指す。事態Dの一部、及び、事態Aにおける存在物がこれに当たる。

¹¹ 「腫瘍」「しこり」では「テイル」の使用が可能だが「アル」の使用が好まれる。この種の現象については、存在物の機能・役割や存在物が存在場所に及ぼす作用といった観点から他の用例とともに別稿で論じたい。

「痣」「瘤」では「テイル」「アル」の出現数が同数であるが、「アル」が使用されている用例は、それらが生来ある場合が大半(86.7%)である¹²。この場合、「テイル」に置き換えにくい場合が多い。

(48) 生まれつき遺伝子の病気で身体に無数のアザが {あります／ — }。 (OC12_00044)

一方、「テイル」の用例はすべて生来のものではなく、ある時点で発生出現したものであった。このタイプの「テイル」は「アル」に置き換えることができる。ただし、出現数から見れば、「アル」と比べ、「テイル」の使用が相対的に好まれると言える。

(49) その顔は、長いこと苛酷なあつかいをうけたことを語っていたし、手首や足首には大きなあざが {ついていた／あった}。 (PB49_00267)

さて、本稿の主題である“「テイル」の出現数が「アル」の出現数を大きく上回っている場合”つまり、“「アル」の使用が抑制される場合”に話を戻そう。「テイル」の割合が80%以上（「アル」の割合が20%未満）の「霜」「汗」「バス」「草」「煙」「星」「涙」「霧」「船」「車」「月」「花」「芽」はいずれも常態的变化という特徴を有していると見ることができる。

すなわち、稼働中の移動手段としての「バス」「船」「車」は、移動（位置変化）を常態とし、たとえ停止（駐車／停泊）中であっても、それは移動過程の中の一時的な状態と捉えられる¹³。「星」「月」は一般に天空を絶えず移動していると地上の人には認識される。「霜」「煙」「霧」はいずれも発生後長く留まることなく移動あるいは消滅する。「草」「花」「芽」は、芽吹いてから枯れるまでの絶え間ない変化の中に存在しているものと認識される。そのために「アル」の使用が抑制される¹⁴が、同じ植物であっても「木」では「アル」の出現率が81.8%と非常に高いのは、話者が「木」を「草」「花」「芽」のような常態的に変化する対象とは見なしていないためであると考えられる。

(40)～(45)に示したように、こうした常態的变化という特徴を持つ対象の存在は「テイル」によって表され、「アル」の使用は抑制される。

4. 意図

ここでの意図とは、人が意志的な行為を行う時の、その理由や目的である。動詞「起き上がる」は主体の意志的な動作を表すが、動詞自体は行為の具体的な意図を含意しない。したがって、(50)では太郎の意図、すなわち“太郎が何のために起き上がったのか”はわからない。

(50) 太郎が起き上がった。

一方、(51)は行為の意図が文脈上に明示されているから、行為の意図は明確である。

(51) 太郎がトイレに行くために起き上がった。

語彙的な意味の中に行為の意図が含まれている動詞がある。(52)の動詞「置く」は意志的な動作を表すが、その行為の具体的な意図を表さない。したがって、(52)では太郎の意図、すなわち“太郎が何のために台の上に大根を置いたのか”はわからない。

¹² 事態の類型の観点から言えば、事態Aに分類される。

¹³ その点、有情物の「トンボ」「ハエ」も同様である。

¹⁴ 「咲く、生える、出る」などの動詞とのコロケーションという側面もある。

(52) 太郎は庭の台の上に大根を置いた。

一方、(53)の動詞「干す」は、対象物をその場所に設置する目的・意図を表している。したがって、次の(53)は、(51)のような文脈がなくても、太郎の行為の意図が分かる。

(53) 太郎は庭の台の上に大根を干した。

(51)(53)では行為の主体「太郎」が文に現れているが、(54)のように現れない場合もある。

(54) 味に丸みが出るように、少量の黒酢が{入れてある／入っている}。

(54)の場合、文脈から「入れてある」「入っている」ともに、“そのようにした行為の意図”が了解される。一方、文脈がない場合、「テアル」は意図の存在を含意するが、「テイル」は含意しない。

(55) 魚の鰭が{焦がしてある／焦げている}。

4.1 意図の明示(文脈)

ここでは意図が文脈上に明示されている場合、「アル」「イル」の使用が抑制されることを示す。

次の(56)～(59)では意図が文脈上に明示されていない。この場合、「イル」「テイル」あるいは「アル」「テアル」の使用が可能である。(56)～(59)ではそれぞれ「イル」「テイル」あるいは「アル」「テアル」のどちらを用いても同一の事態を表すことができる。

(56) 組合の事務所に警察が{いた／来ていた}。

(57) 動物園にはたくさんの人が{いた／来ていた}。

(58) 柳の下には用水手桶が{ある／積んである}。

(59) 私のデスクの前に椅子が{あります／置いてあります}。

ところが、“そのようにした行為の意図”が文脈上に明示されると「イル」「アル」の許容度が低下する。

(60) 労働者の一人が政府を批判するビラをまいたとして、組合の事務所に警察が{^{??}いた／来ていた}。
(= (28))

(61) 〈この動物園は今日が今年最後の開園日となる〉
今年最後の動物園には、別れをおしんでたくさんの人が{^{??}いた／来ていた}。

(62) 島原の火災の折、門が閉まっていて多数の遊女が逃げ遅れ、焼死したできごとがあったため、柳の下には用水手桶が{^{??}ある／積んである}。
(= (30))

(63) 県庁五階にある知事室のドアは常に開け放ち、さらに私のデスクの前には、誰でも私と直に対面できるようにいくつかの椅子が{^{??}あります／置いてあります}。ですから、私のところには若い職員の人たちがしょっちゅうやって来ます。
(0B4X_00040)

4.2 意図の明示(動詞の語彙的意味)

(64)～(66)のように、「テアル」が“ある場所に物が存在していること”を表す場合、一般に、その「テアル」を「アル」に置き換えることができる。(64)～(66)は「アル」「テアル」のどちらを用いても同一の事態を表すことができる。

- (64) 志織は小さな白い食卓に頬杖を突いて坐っていた。前にグラスと皿が {置いてあった／あった}。 (LB19_00269)
- (65) 船だまりと川を結ぶ細い水路の入り口には交通信号が {設けてあった／あった}。 (PM51_00812)
- (66) 私道の入口に〈山菜料理 あさぎり荘〉の看板が {掲げてある／ある}。 (LBd9_00003)

ところが、次の(67)は「テアル」を「アル」に置き換えることができない。仮に「アル」に置き換えると「乾燥させるため」という「干す」の意味が損なわれ、同一事態を表すことができなくなる。

- (67) オロッチイ人と名づけられた島民たちの小屋の周囲には、サケが {干してあった／^{??}あった}。部屋の中央にある炉のまわりで三、四日かかって燻製にした後、戸外の竿の上に並べて天日にさらしていた。 (LB19_00171)

つまり、(67)の場合、(64)～(66)とは異なり、「アル」を用いることによって「テアル」が含意する「存在」の部分だけを抽出して表現することができないのである。

(60)～(63)では文脈が行為の意図を明示していたが、(67)では(60)～(63)において文脈が担っていた“行為の意図の明示”という役割を動詞「干す」が担っていると言える。そして、(60)～(63)で「テアル」を「アル」に置き換えることができなかったのと同様に、(67)においても「テアル」を「アル」に置き換えることができないのである。次の(68)(69)にも同様の現象が観察される。

- (68) あたりには茶の木をかきねがわりにうえた農家が多く、どの庭にもつけ物用のダイコンが {ほしてあった／[#]あった} ¹⁵。 (LBb9_00118)
- (69) 片桐一家の住んでいた二号棟は、団地の入口のすぐ近くに立っていた。ベランダに色とりどりの布団が {干してあった／[#]あった}。 (LBa9_00106)

同様のふるまいは、「祀(祭)ル」「生ケル」「飾ル」などの動詞でも観察される。

次の(70)(71)は、存在場所としての「神棚」「祭壇」と、そこに存在する物としての「お札」「鼎」との関係から、設置(配置)の目的・意図が明らかである。したがって、その目的・意図を損ねることなく「お札」「鼎」の存在を表現する場合、「アル」の使用が抑制され、当該の設置(配置)の目的・意図を含意する「マツツテアル」が優勢となり、「アル」の使用は抑制される。

- (70) 3年前、わが家の宗派・天台宗の本山である比叡山延暦寺へ行って、永遠の先祖供養をしていただいた。うちには神棚があり、[そこに] お札が {祀ってある／[#]ある} ¹⁶。 (LBg7_00060)
- (71) 何か祭壇のようなものがあり、そこに先ほどの鼎が {祭ってある／[#]ある}。 (PB29_00753)

また次の(72)～(75)の場合も同様に、“形を整えて、美しく見えるように”といった特定の目

¹⁵ 「#」は「アル」でも文が成立するが、「テアル」とは異なる解釈になることを示す。

¹⁶ 「そこに」を補った。

的・意図をもって設置（配置）されていることが状況から明らかであるため、「アル」ではなく、その意図を含意する「生ケル」「飾ル」の使用が優勢となり、「アル」の使用は抑制される¹⁷。

- (72) 窓の前におかれたトレーニング用自転車をのぞけば、こぎっぱりしたというか、けっこう品よく整えられた部屋だ。よく片づけられて、家具のほこりも払われ、ていねいに掃除機がかけられていた。きれいな緑の水差しにラッパズイセンが{生けてある／＃ある}。
(LBh9_00178)
- (73) その日、やっぱくが塾にたどりついたとき、教室のいちばんまえの右はしに、いつも早くきてすわっている山田くんがいなかった。そのかわり、つくえの上には、黒っぽい花びんに、白とむらさきの花が{いけてあった／＃あった}。
(LB1n_00019)
- (74) ソフィーはリビングを横切って、母の寝室に行った。サイドテーブルにラッパ水仙が{飾ってある／＃ある}。黄色い花たちは、ソフィーがとおしかかると、うやうやしく頭をたれたように見えた。
(0B5X_00007)
- (75) 突然チロル風の服と言われて困ったが、私にはひらめくものがあった。私の住んでいる街には、都内で一軒だけのフォークダンスの衣装専門店があるのだ。すぐ駆けつけたところ、ウィンドウにルーマニアの民族衣装が{飾ってあった／＃あった}。チロルに見えないこともないし、白いレースの帽子がとても可愛い。
(PM41_00038)

4.3 特定の意図が慣習的に含意される表現

次の(76)～(78)はいずれも“ある場所に人がいること”を表しているが、当該の状況では、「イル」より「テイル」の方がより自然であると感じられる。

- (76) 先日、とある全国チェーン店の○スバーガーのショップに入った時のこと。注文して、商品が来るまでの待ち時間、トイレに行こうと思ったら、二つのトイレに人が{??いました／入っていました}。で、ちょっとそこから離れたところで空くのを待っていて、お一人出てきました。その人はその店員さんでした。
(= (29))
- (77) 私は東京でタクシーに{??いました／乗っていました}。その日もひどい交通渋滞で停車することが多く、私はうんざりして…。
(PB21_00041)
- (78) ステージに{??いる／上がっている}のは、いまだき珍しい壮観なまでの巨軀の女性で、歌はサラ・ヴォーンが得意とした「ミスティ」だった。
(LBf9_00066)

人が「トイレ」「タクシー」「ステージ」に自らの意志で「入る」「乗る」「上がる」という移動をして、その場所にいる場合、我々は経験から“その人がその場所にいることの意図”を容易に推論することができる。そのため、「トイレに入っている」(＝トイレで用を足している)、「タクシーに乗っている」(＝移動のためにタクシーを利用している)、「ステージに上がっている」(＝パフォーマンスをしている)のように、特定の場所と特定の動詞が結びつくことによって、存在主体の行為の意図が慣習的に引き出される。一方、「イル」ではこうした特定の意図が慣習的に引き出されにくい。

¹⁷ 益岡(1984)の「注8」に、

「テーブルの上の花の存在」は、存在動詞アルを用いた典型的存在文で描写すると、かえって少し不自然である(川戸昌氏の口頭での指摘に依る)。

(i) ?リビングのテーブルには花がある。

この場合、(14)は典型的な存在文では十分描写できない物の存在(のありかた)を記述するために用いられる、ということもできる。」

と述べられている(ここでの(14)は「リビングのテーブルには花が飾ってある」という用例を指す)。本稿は益岡(1984)のこの記述に対してより詳細な説明を加えたものと言える。

その結果、「テイル」と「イル」との間に意味的な役割分担が生じ、慣習的に引き出される主体の意図を表す場合は「イル」の使用が抑制され「テイル」が使用されるということが起きる。「トイレにいる」は“用を足す”という慣習的な意味が引き出されにくいため(79)では「テイル」が優勢になる。一方、(80)の「清掃係の人」が清掃のためにそこにいるのであれば「イル」が優勢になる。

- (79) コンビニには2つトイレがあったが、運悪く2つとも人が {^{??}いた／入っていた}。
(80) トイレに清掃係の人が {いた/^{??}入っていた}。

次の(81)～(84)の下線部も、「テイル」を用いることによって、それぞれ(スタジオで録音などを行う)(入浴する)(外で働く)(調理を担当する)といった意味が慣習的に引き出される。したがって、この状況では「イル」より「テイル」が優勢になる。

- (81) バンドマンの返信が遅い理由：スタジオに入っている・ライブをしている・打ち上げに出ている・二日酔いで死んでいる、というのは言い訳で面倒くさくて後回しにしてるだけです。
(https://twitter.com/izumi_isme/status/229525541743640577)
(82) たっぴりとたたえられた湯の中には、先に身体を洗い終えたエリスが入っている。
(LBi9_00121)
(83) そして私にとっては、単に母親が外に出ている穴埋めとしてでなく、ひとつの大切な人間関係が作れたという意味で…。
(LBg3_00003)
(84) ネパール人が厨房に入っているようで、安定した味とナンが楽しめます。
(<https://www.tripadvisor.jp/LocationPhotoDirectLink-g1023536-d7499586>)

5. おわりに

本稿では、日本語の存在表現において存在動詞「アル」「イル」の使用が抑制されるケースについて、「事態の類型」「存在の典型性」という枠組みでは十分にすくいきれない言語現象に焦点を当てて考察した。本稿の結論は以下の2点である。

結論Ⅰ：存在物が「常態的变化」という特徴を有する場合、「アル」の使用が抑制される。

- (85) 顔に汗が {^{*}あった／浮かんでいた}。
(86) バス停に14時発のバスが {^{*}ある／停まっている}。
(87) 部屋に煙りが {^{*}ある／立ちこめている}。

一方、有情物は元々動くことを前提とする。そうした特性を持つ有情物の存在を表す「イル」は、対象が常態的变化という特性を強く持っている場合であっても使用は可能である。

- (88) 棒の先にトンボが {いる／とまっている}。

結論Ⅱ：存在物が人の意図的な行為の結果として存在していることが明らかな場合、「アル」「イル」の使用が抑制される。これには3つのパターンがある。

- ① 行為の意図が文脈上に明示されている場合。

- (89) 政府を批判するビラをまいたとして、組合の事務所に警察が {^{??}いた／来ていた}。
 (90) デスクの前には誰でも私と直に対面できるよういくつか椅子が {^{??}ある／置いてある}。

② 行為の意図が動詞の語彙的な意味によって明らかな場合。

- (91) 庭には漬物用の大根が {[#]あった／干してあった}。
 (92) 神棚にお札が {[#]ある／祀ってある}。

③ 行為の意図が場所名詞と動詞との結びつきによって慣習的に含意される場合。

- (93) あのタクシーには人が {[#]います／乗っています}。
 (94) 運悪くコンビニのトイレには2つとも人が {[#]いた／入っていた}。

参考文献

- 于康 (2007) 「日本語の存在構文とその存在構文からみた動詞の意味と構文のかかわり」『国文学攷』192、193 広島大学国語国文学会
 奥田靖雄(1983) 「に格の名詞と動詞のくみあわせ」『日本語文法・連語論(資料編)』 むぎ書房
 金水敏 (2009) 「意志性・主観性と文脈」『語彙の意味と文法』 くろしお出版
 佐藤琢三(2017) 「知覚されていない〈過程〉とその言語化 「ある／いる」「している」「した」の選択可能性をめぐって」『日本語／日本語教育研究』8 日本語／日本語教育研究会
 張麟声 (1991) 「中日様態存在表現の対照研究」『月刊言語』20-7 大修館書店
 張麟声 (2006) 「現代日本語の存在表現」益岡・野田・森山編『日本語文法の新地平1』 くろしお出版
 寺村秀夫(1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』 くろしお出版
 陳昭心 (2009) 「「ある／いる」の「類義表現」としての「結果の状態のテイル」」『世界の日本語教育』19 国際交流基金
 野村剛史(2003) 「存在の様態 シテイルについて」『國語國文』72-8 京都大学文学部国語学国文学研究室
 藤井正 (1966) 「「動詞＋ている」の意味」金田一春彦(編)『日本語動詞のアスペクト』(1976)再録 むぎ書房
 益岡隆志(1984) 「「ーてある」構文の文法」『言語研究』86 日本言語学会
 渡辺誠治(2020) 「非情物の存在を表す「Vテイル」と「アル」の使い分けについて」『日本語教育』175 日本語教育学会
 渡辺誠治(2021) 「有情物の存在を表す「Vテイル」と「イル」の使い分けについて」『日本語教育』178 日本語教育学会
 渡辺誠治(2023^①) 『現代日本語の存在を表す諸表現 ―「アル」「イル」「テイル」「テアル」―』日中言語文化出版社
 渡辺誠治(2023^②) 「日本語教育における存在表現の導入」『日本語文法』32-1 日本語文法学会

使用したコーパス

国立国語研究所 『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』